

名古屋キリスト教社会館

後援会だより

第 30 号

発行日；2021年8月15日

発行人；岡村 恒義 編集人；谷川 修

〒457-0805 名古屋市南区三吉町 6-17

定期総会が開かれました

コロナ感染の不安が収まらないなか、7月2日(金)に2021年度の定期総会(通算で12回目)が開催されました。会員の皆様には、事前に案内ができずに誠に失礼しました。役員の皆様と、職員が対面式とオンラインの併用で参加しました。

これまで、総会に合わせてお楽しみ企画だったり、学びの企画にも取り組んできましたが、今年は、福祉研究所と共催で、会津放射能情報センター代表の片岡輝美氏に、「次の核災害に備えるために、次をおこさせないために～福島原発核事故の経験から」と題しての講演をオンラインで聞かせて頂きました。

片岡氏は、東日本大震災による福島原発事故による放射能汚染と被ばく状況について、会津若松市内のキリスト教会に放射能情報センターを設置して調べ、様々に情報発信を進められ、子ども脱被ばく裁判も代表として闘っておられる方で、熱のこもったお話をお聞かせ頂きました。福島第一原発から100km離れている会津若松でも、放射線量が異常に高かったこと、そして、未だに低くならない現状、国は核災害の被害を「見えない化、見せない化」していると訴えられました。愛知県にいと、原発事故と放射能の恐れは、遠い世界のことのように思われるかもしれないけど、福井原発、浜岡原発からの距離を考えると、自分たちの問題としてとらえることの必要性、次の核災害を起こさせないために私たちができることとして、原発を動かさせない、止めること、そうして、憲法に定められた私たちの権利を取り戻そうと訴えられました。聴衆者にも自分たちの問題であるということが強く響いたのではないかと思います。

総会では、2020年度事業報告、決算、2021年度事業方針・事業計画と予算案、そして役員案が審議され、いずれも提案のとおり可決されました。

事業報告では、コロナ感染を防ぐ意味で、総会を始めとして、様々な行事、企画実施を見合わせざるをえなかったこと、社会館においては、名古屋市の計画

として、発達センターあつた、ちよだの園舎建て替え、地域療育センターのミニ版ともいえるセンター化構想が発表され、2～3年後に工事が始まると考えられ、2020年度は東部支部を中心に募金活動に向けての準備がすすめられたとの報告でした。(岡村会長)



決算は、以下の通りでした。

収入の部

項目	金額	備考
会費収入	545,000	次年度以降分を含む
事業収入	37,762	もちつき収益
雑収入	4	預金利息収入
前期繰越金	269,433	
合計	852,199	

支出の部

項目	金額	備考
定期総会費	0	オンライン方式のため
印刷経費	37,400	便り印刷、役員会資料
通信経費	24,000	社会館へ電話代
振込手数料	12,414	郵便振替手数料ほか
社会館60年	60,000	60周年記念募金協力
会議費	2,916	役員会茶菓子
事務人件費	120,000	社会館へ
支部負担金	30,000	東部支部へ
合計	286,730	

差引残額 565,469円(次期へ繰越)

次期役員 会長／岡村恒義 副会長／安藤博之
 幹事／鉄井富士男・富田博行・松尾 修・坂野真奈美・福武 馨・木下義久・荒木美衣・荒川幸子・安藤京子・佐藤美智子・小林直樹
 監事／上山恵美子 (太字は新たに加わった幹事)
 岡村氏からは、辞意の表明が出されていたのですが、後任候補が確定できないため、あと1年留任いただくこととなりました。この1年で後任候補を決めることが課題となっています。(事務局長／谷川 修)

コロナ苦学生支援の報告とお知らせ

前号の29号の裏面にて、「コロナ苦学生を応援しよう」との呼びかけに対して、何と11万円もの献金が寄せられました。

(6月15日までの分)

6月18日(金) 上山監事による監査の時に
お渡したところ大いに感激され、代表の上山氏(監事のおつれあい)より、お礼のメールを頂きましたので、ご紹介させていただきます。

(右に掲載)

今回、義援金をお寄せ頂きました方は、
石川美和子、藪百合子、小林冴子、(株)井藤工業、川口桂子、植木信一、恒川 修、小長覚子、日本アライアンス名古屋教会、堀池育志、黒越睦子、荒武ひろみ、西山恵美、小宮一子、榎本雄太、谷川 修(敬称略)

コロナ感染は収束するどころか、爆発的な
拡がりをみせており、苦学生支援の継続が必要な状況にあることから、**引き続いての協力を**
呼びかけさせていただきます。同封の振替用紙にて義援金をお寄せ下さい。義援金は、主催者が適切な品物にかえて学生に渡します。ご協力、宜しく願います。(事務局)

キリスト教社会館後援会の皆様へお礼

市民アクション8区による福祉大生への食糧支援は、おかげさまで皆様のキリスト教社会館後援会含め、多くの皆様のご支援で、2月21日の第1回目から、この7月18日で第6回目を迎えます。有難うございます。

始めてみますと、自らのバイトや親からの仕送りが困難になり、1日一食の学生が少なからずいる事が分かり、コロナが引き金になったとはいえ、これはほおっておけないと多くの賛同につながりました。

その後2回目から、生理用品が高くて苦勞している様子が分かり、チラシの連絡先に女性名を入れたり、スタッフに女性を配置したりして並べたところ、大変喜ばれました。

先日振り返り会議を開き、学費や生理用品が国際比較でも日本は異常に高く、親の所得で学ぶ機会が左右される遅れた日本社会の現状を、この支援を通じて学生たちとも共有し、少なくとも選挙にはいこうと、お茶しながら語り合うコーナーなど設けようと話し合いました。

当面、8月と9月も計画を立てています。重ねてご支援をお願いし、お礼のあいさつとさせていただきます。

市民アクション愛知8区——上山辰男



2021年8月10日現在

会員数754名

当面の目標である1000名を早期に達成できるよう、お知り合い等への呼びかけを今後も宜しく願ひ致します。(O.T)

——編集後記——

終戦から76年の今年は、様々に取りざたされたオリンピックとパラリンピックの狭間で迎えました。戦争体験者が少なくなり、語り継ぎが途絶えてしまう恐れを感じます。

コロナ感染の爆発的拡がりに加え、停滞する前線の影響を受けての自然災害に加え、地震も発生、一人ひとりが思いを巡らせ、取り組むべき課題に真剣に向き合わない。(O.T)